

牛群検定成績表の「体細胞数」の項目は最も活用されている情報と言えます。乳房炎に罹患すれば、乳房が炎症を起こすので体細胞数が上昇し、乳質が悪化するばかりか、乳量そのものが減量します。

個体の体細胞数が7万／ml以下の牛を「健康牛」、7万1千／ml～28万2千／mlの牛を「要注意牛」、28万3千／ml以上の牛を「乳房炎牛」として頭数比率を見てみましょう。同様に平成22年7月の都府県4,240戸の検定農家を集計するとその比率は、

健康牛：要注意牛：乳房炎牛＝43%：35%：22%

となりました。皆さんの成績はいかがでしょう？

農家の体細胞数平均値が15万／ml以下の農場は「健康牛」の割合が高く、70%以上に達している事例が見られます。「要注意牛」の早期発見、早期対処により「健康牛」の割合をぐっと向上させましょう。